

## 演題：口腔悪習癖による咬合崩壊症例に対する治療計画の立案

演者：八田知之（医療法人社団徳治会長野歯科医院）

日付：2016年9月27日

Key words

1. 口腔悪習癖
2. 診査診断
3. 治療計画の立案

口腔悪習癖には、TCH・ブラキシズム・クレンチング・ナッシング等が挙げられる。これら悪習癖の亢進に伴い、咬耗、歯槽骨吸収、歯髄壊死、歯牙破折等が惹起され、歯牙欠損の進行による咬合崩壊を生ずる可能性が高まると考える。

今回、口腔悪習癖により咬合崩壊した症例に対する基礎資料の収集や分析、それに基づく治療計画の立案を行った。

患者は50歳男性。職業は畜産関係。咀嚼障害を主訴に2016年3月16日当院を受診（以前から当院で加療をしていたが、中断が多い）。全身的には高血圧症（内服加療中）を認めた。歯科的既往歴としては、左右上顎臼歯部の抜歯、歯根破折があり、以前の資料より顎位の異常を疑い基礎資料を収集した。患者の希望も考慮し治療計画の立案中にある。

まだ治療介入前の症例ですが、御指導・御鞭撻の程宜しくお願い致します。